

英文法律文書作成 (English Legal Writing)

3 学期 木曜 8 時限

授業時間：75 分×10 回

単位数：1 単位

履修年次：2 年次

担当教員：大塚章男

研究室：教員研究室 2

授業の到達目標：

関連する法令・条約、関連する契約法理論についての理解を深め、また契約文書・契約書作成のための実践的な契約文書の Drafting の能力を養い、渉外実務家としての基礎能力を養成することを目的とする。

授業概要：

契約法理論としてそれぞれの契約条項の法律解釈、法律問題発生のポイント、その解決策、国際（英文）契約書の構成などを学ぶ。ビジネス態様別に国際（英文）民商契約の対象となる国際取引を取り上げ、そこにおけるビジネスの内容、ビジネス利益の追求のメカニズム、ビジネス相手方との利害の調整、契約交渉、交渉内容をベースとしての国際（英文）契約文書・契約書の作成、drafting に至るプロセスを学ぶこととする。10 週の講義のうち、2 回程度即日起案（英文契約の条項）を行う予定である。

評価方法：

最終レポート 50 % ・ 授業中の即日起案 50 %

教科書：

浅田福一『国際取引契約の理論と実務（改訂版）』（1999 年、同文館）

参考書：

田中英夫編集代表『英米法辞典』（東大出版会）

鴻・北沢『英米商事法辞典（新版）』（商事法務研究会）

岩崎一生『英文契約書一作成実務と法理（全訂新版）』（1998 年、同文館）

早川武夫『法律英語の基礎知識』（1992 年、商事法務研究会）

国際事業開発『英和対訳 国際取引契約書式集』（1989 年）：数巻に互る大部の書式集

田中・中川・仲谷『国際売買契約ハンドブック（改訂版）』（1994 年、有斐閣）

小高寿一『英文ライセンス契約実務マニュアル』（2002 年、民事法研究会）

国際経営法務研究会『国際買収・合併事業契約書マニュアル』（1990 年、清文社）

田中信幸『新版国際事業と契約』（1993 年、清文社）

西川知雄『国際リース契約の手引』（1985 年、有斐閣）

授業計画：

各々の契約類型毎に、実際に使用した契約書を利用して、各条項が当該国際取引においてどのような意義・機能を有しているかなどにつき講義した上で、これにつき議論をしてもらい、また適宜、授業時間内で契約条項を起案してもらう。

第1週

国際取引と法（概説）：国際管轄、準拠法、条約・公的規制、強制・執行可能性（判決・仲裁の承認・執行）など

第2週

国際取引契約を作成する上での注意点：国際契約と国内契約との違い、国際取引契約の特徴、申込と承諾、Battle of Forms、Letter of Intent（その他 MOU など）、国際契約書の概観、契約法理論（consideration など）、法律英語表現の注意点

第3週

「国際物品売買契約Ⅰ」：国際契約一般論（Title, Whereas Clause, Sign 等）、一般条項：不履行条項、解除条項、不可抗力、譲渡禁止、通知、完全合意など

第4週

「国際物品売買契約Ⅱ」：品質条件、価格条件、数量条件、インコタームズ等の船積条件、決済条件など

第5週

「国際代理店・販売店契約Ⅰ」：代理店・販売店の違い、契約条項の特徴（独占・非独占、競業禁止、最低購入数量など）、解除条項、代理店保護法など

第6週

「国際技術（特許・ノウハウ）ライセンス契約Ⅰ」：特許・ノウハウの比較、独禁法、秘密保持契約：工業所有権の種類、独占・非独占、Royalty、技術援助、秘密保持、公法的規制、源泉徴収税など

第7週

「国際技術（特許・ノウハウ）ライセンス契約Ⅱ」：その他条項

「英文 OEM 契約」：製造委託契約の条項など

第8週

「国際合弁事業契約」：合弁契約の概念、合弁形態（合弁会社、Partnership, Unincorporated JV）、組織運営、デッドロック条項、撤退問題など

第9週

「国際ファイナンス契約」：ローン条項、Rep & Warranty、Covenants、Default 条項、保証状など

第10週

一般条項：準拠法・裁判管轄・国際商事仲裁など、外国判決・仲裁判断の執行問題など、Legal Drafting のまとめ